

# 高1 進路ガイダンスで自己分析を行いました

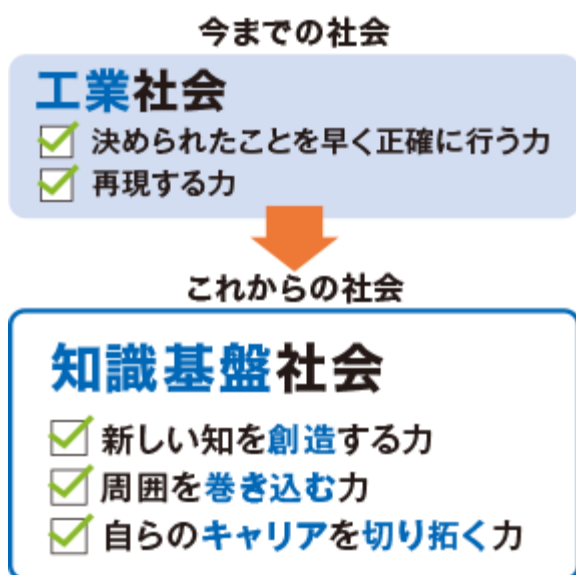
産業構造が大きく変化する今、社会で求められる力は知識の習得や決められた正解にたどりつく力だけではなくなっています。知識をもとに、新たな問題を解決する力や、主体的に働きかける姿勢、周囲の人たちと協働で取り組む姿勢が求められています。また、先々を見越して自身をどう成長させていくかを考え、学び続ける姿勢を身につけることも重要です。このように変わりゆく時代にあって、自立した一人の人間・社会人として生きていくためには変化に対応できる力が必要です。

そうした力を育成するため、基礎的な知識習得にとどまらず、知識の活用や創造性、生涯を通じて学び続ける基礎的・汎用的な能力（ジェネリックスキル）習得の必要性が様々なかたちで提唱されています。今回、高校1年生が受験したのはいま求められているこのような「新しい学力」を多面的に測定するアセスメントテストです。進路ガイダンスでは、受験結果に基づき、

- ① 自分の「強み」に気づかせました。
- ② 自分が伸ばしたいと思う力を考えさせました。
- ③ 力を伸ばすために日々の生活の中で取り組めることを確認させました。

日常生活の中では、学力以外の自分の強みはどこか、なかなか気づくことができません。また、今回のテストでは、本人の興味・価値観・志向に基づき、満足できそうな仕事も挙げられています。厚生労働省の職業分類では17209職種があるので、たくさんの仕事の中から自分の活躍できそうな仕事を考える契機になることを願っています。

## ■社会構造の変化



## ■求められる力の変化

